

学習に用いる言葉

四年生までに学んだ言葉

あらすじ

物語を短くまとめたもの。登場人物がしたことや、出来事を、話の順に短くまとめてつなげると、あらすじになる。

物語を人にしようかいつるときには、あらすじを伝えようと、その物語を全部読まなくても、だいたいのどのような内容かが分かる。

引用

他の人の言葉や、本などに書かれていることを、自分の文章の中で使うこと。

・かぎ(「」)を付けるなどして、他と区別する。
・元の言葉や文を、そのままぬき出す。
・どこから引用したのかを示す。

他の人の考えを引用することで、自分の話や文章の内容をおぎなうことができる。

作者

物語や詩などを作った人のこと。同じ作者の作品をいくつか読むと、その作者の作品のみりよくがよく分かるようになる。

司会

話し合いなどを、目的や話題に合わせて進行すること。また、それを行う人。

質問

分からないことや知りたいこと、確かめたいことなどを、人にきくこと。質問をするときは、相手の話をよく聞いて、関係のあることをたずねるようにする。

話し合うときには、おたがいに質問をし合うことで、他の人の考えがよく分かったり、みんなの考えが整理されたりする。

会話文・地の文

かぎ(「」)で示している、登場人物の言葉を会話文といい、他のところを地の文という。物語では、主に地の文によって話が進む。

会話文では、登場人物の考えや思いがそのまま表れていることが多い。

地の文では、登場人物の様子や行動を表しているところに、その登場人物の性格や気持ちが表れていることがある。

箇条書き

事がらを、短く、一つ一つ分けて書きならべる書き方のこと。「・」「①②……」など、記号や数字を用いることが多い。

箇条書きを使うと、事がらの全体や順序を整理しやすくなる。

語り手

物語の地の文を語る人。人物の行動や気持ち、場面の様子などを語りながら、話を進めていく。

取材

知りたいことについて、さまざまな方法で調べて、材料を集めること。実際に見たり聞いたりする、本などで調べる、アンケート調査をするなどの方法がある。

取材をして分かったことは、伝える内容や考えを確かめたり、おぎなったりするのに役立つ。

出典

引用した言葉が書かれていた本や資料などのこと。本の場合は、①作者名、②題名、③出版社(発行所)名、④発行年、⑤書かれていたページを示す。

出典を示しておくことで、読んだ人が同じ本や資料などをさがして読むことができる。

情景

物語や詩で、登場人物の気持ちとひびき合うようにえがかれた、風景や場面の様子。その登場人物の目にうつった景色や、聞こえた音などとして、修飾語とともにえがかれることが多い。

語り手がどのような立場で、どの登場人物に寄りそっているかを確かめるとその物語の世界をいっそう深く味わうことができる。

議題

話し合いや会議などで取り上げる題材のこと。話し合うことによって何かを決めたり、たがいの考えを交流したりしたい事がらを選ぶとよい。

議題を、話し合いの初めに確かめたり、いつも参加者から見るところに示しておいたりすると、参加者が話し合いの方向性を理解でき、進行しやすくなる。

キャッチコピー

相手を引きつけるように工夫された、短い言葉。

ポスターや広告など、多くの人が見るものに、目を引くように使われている。

会話文や地の文に、登場人物の気持ちや分かる言葉がなくても、情景から人物の気持ちを想像することができる。

設定

時、場所、登場人物など、その物語全体に関わること。

設定を読み取ることで、人物の変化や出来事の意味をとらえやすくなる。

対比

二つのものを比べて、ちがいはつきりさせること。

対比して説明することで、それぞれの似ているところやちがうところ、長所や短所などが分かりやすくなる。

題名

物語や文章に付けられた名前のこと。

題名には、書いた人が作品や文章にこめた思いが表れていることがある。

組み立て

文章や話が、どのようなまとまりと順序でできているかということ。「初め」「中」「終わり」という三つのまとまりで考えられると、分かりやすくなる人が多い。

読むときは、それぞれのまとまりが何について書かれているかを考えながら読むと、文章全体の内容がよく分かる。話したり書いたりするときは、伝えたいことをまとまりごとに整理して、組み立てを考えると、聞く人や読む人に伝わりやすくなる。

索引

その本の中にある言葉や物事、どのページにあるかを、五十音順などで示してあるもの。

索引を使うと、知りたい事がらが書いてあるページをかんたんにさがすことができる。

段落

文章を組み立てている、事ごとこの内容のまとまり。初めを一字下げて表す。

読むときは、それぞれの段落で何が書かれているのかを考えると、全体の内容がとらえやすい。書くときは、内容ごとに段落を分けると、読み手に分かりやすい。

問い(問いの文)

説明する文章などで、これから何を書くかを、読み手に問いかける形で表した文のこと。

問いの文を見つけると、文章全体で書かれていることを見通すことができる。

登場人物(人物)

物語の中に出てくる人のこと。物語の中で、人のように動いたり、考えたりする生き物や物も、登場人物(人物)という。

登場人物が言ったことや、したことを思い浮かべながら読むと、物語の内容がよく分かる。

🌱 場面

物語の中にあるいくつかのまとまりのこと。時間や場所、登場人物のしたことなどで、ひとまとまりになっていることが多い。

登場人物の会話や動き、そのときの音や色などを表す言葉に気をつけると、場面の様子をくわしく想像できる。

🌱 筆者

文章を書いた人のこと。物語や詩などを作った人である「作者」と区別して、説明する文章を書いた人を筆者ということがある。

筆者がどんな人かを確かめたり、筆者が考えたことに気をつけて読んでみると、その文章が何について説明しているのかがよく分かる。

🌱 見出し

文章のまとまりの初めに置かれる、要点を短くまとめた言葉。

見出しを見ると、そのまとまりのおおまかな内容が分かる。

🌱 メモ

聞いたことや考えたことなどを、後で確かめられるように書き留めること。また、書き留めたものもメモという。

大事なことを短い言葉でメモしておき、整理したりまとめたりすると、後で、伝えたいことを正しく伝えることができる。

🌱 訳者

外国語の文章を、日本語の文章に直す人のこと。

同じ作品でも、訳者によって、使われる言葉や表現がことなる。

🌱 要点

物事や人の話などの中心となる、大事な事からのこと。

話すときや書くときは、短い言葉や文で要点をはっきりと表すと、伝えたいことが伝わりやすくなる。

文章や話の要点となる言葉を見つけるのと、その人が何を伝えたいのかがよく分かる。

🌱 要約

話や本、文章の内容を短くまとめること。目的に応じて、元の文章の組み立てや表現をいかしたり、自分の言葉に言い換えたりしてまとめる。

要約すると、長い文章などでも、短くまとめて伝えることができる。

🌱 連

一行空きなどを入れて区切られた、詩の中のそれぞれのまとまり。

一連ごとに様子を想像したり、連どうして使われている言葉を比べたりすると、詩の全体がとらえやすい。

🌱 話題

話したり話し合ったりするときの材料や、中心となる事からのこと。

話題から外れないように話すと、聞く人も、何を伝えたいかがよく分かる。

🌱 わり付け

新聞などで、記事や見出し、写真・図などの大きさと、入れる場所を決めること。

最も伝えたいことを大きくあつかうなど、わり付けを工夫するとよい。